

保健師がこども虐待を発見できると認識している保健事業

—母子手帳交付から3歳児健診—

小笹美子(琉球大学)
長弘千恵(国際医療福祉大学)
斎藤ひさ子(佐賀大学)
外間知香子(沖縄県中央保健所)
屋比久加奈子(那覇市役所)

目的

こども虐待を早期発見し予防へつなげる体制を整備するために、行政機関に働く保健師がこども虐待を把握できる機会について明らかにする

方法

- 調査期間:平成22年9月～10月
- 調査対象者:沖縄県、福岡県、佐賀県の市町村、保健師等行政機関に勤務する保健師1668名
(回収数は813名、回収率は48.7%)
- 調査方法:郵送による無記名自記式アンケート調査
- 調査項目:基本属性(性、年齢)、こども虐待に遭遇した経験の有無と頻度(担当した事例数)、こども虐待について相談を受けた経験の有無、こども虐待の把握機会の認識、他
- 分析方法:事例経験数別に分析し、 χ^2 検定、一元配置分析を行い統計学的有意水準は1%未満とした
- 琉球大学疫学倫理審査委員会による承認を得た

用語の定義

本研究では児童虐待の防止等に関する法律の児童虐待の定義を参考に、こども虐待を「未成年者に対する保護義務者の虐待で、身体的・心理的・性的・ネグレクトのすべてを含む」とした。

本研究の調査対象となる行政機関の保健師がかかわる虐待事例は出生直後から就学前の乳幼児が多いと考えられるため本研究では「こども虐待」と表現した。

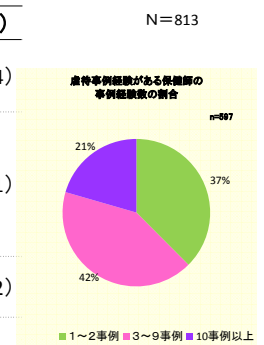
対象者の基本属性

N=813 (%)

性別	男 (%)	23 (2.8)	市町村 (%)	611 (75.1)
	女 (%)	781(96.1)	保健所 (%)	190(23.4)
	未記入 (%)	9 (1.1)	その他 (%)	3 (0.4)
勤務年数	平均年数	14.31	未記入 (%)	9 (1.1)
年齢	平均年齢	39.68	1万人以下 (%)	38 (4.7)
	20代 (%)	150 (18.5)	1～4万人 (%)	199(24.5)
	30代 (%)	263(32.3)	5～9万人 (%)	138(17.0)
	40代 (%)	217(26.7)	10～19万人 (%)	95 (11.7)
	50代以上 (%)	156(19.2)	20万人以上 (%)	161(19.8)
	未記入 (%)	27 (3.3)	未記入 (%)	182(22.4)

子ども虐待支援の事例経験数

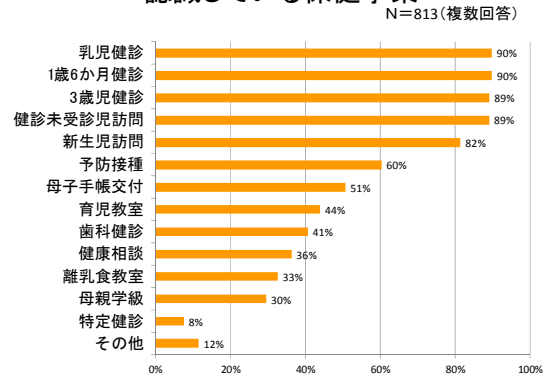
	人	%	(人)
1事例	101	12.4	(224)
2事例	123	15.1	
3事例	99	12.2	(251)
4事例	34	4.2	
5事例	49	6.0	
6～9事例	69	8.5	(122)
10事例以上	122	15.0	
事例経験なし	193	23.7	
未記入	23	2.8	



こども虐待事例経験数別の特徴・かかわり

N=813					
	10事例以上 n=122	3~9事例 n=251	1~2事例 n=224	経験なし n=193	p
地域住民から相談を受けたことがある(%)	93.4	86.5	59.4	7.3	.000
医療機関から連絡を受けたことがある(%)	81.1	62.2	29.5	2.6	.000
要保護児童対策地域会議(虐待予防ネットワーク)に参加したことがある(%)	86.9	56.6	33.0	10.4	.000
現在母子保健を担当している(%)	48.4	46.2	32.1	24.9	.000
現在児童福祉を担当している(%)	13.1	3.2	1.8	2.1	.000
こども虐待に関する研修受講あり(%)	95.9	81.3	54.9	31.6	.000
平均年齢(歳)	42.8	40.2	40.4	35.9	.000
平均保健師勤務年数(年)	18.0	15.0	15.0	10.1	.000

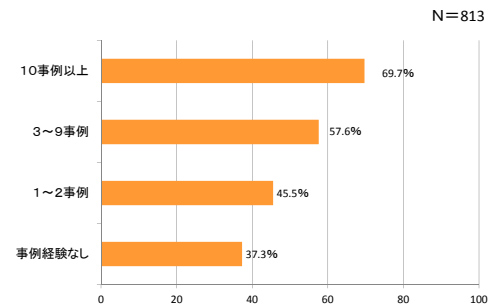
保健師がこども虐待を把握できる機会と認識している保健事業



事例経験数別のこども虐待把握機会と保健師が認識している保健事業

N=813					
	10事例以上 n=122	3~9事例 n=251	1~2事例 n=224	経験なし n=193	p
乳児健診	90.2	87.6	88.8	93.3	.247
1歳6か月健診	88.5	88.4	89.7	92.7	.388
3歳児健診	88.5	87.6	89.3	91.2	.486
健診未受診児訪問	91.0	91.6	84.8	89.1	.159
新生児訪問	88.5	81.3	76.3	83.4	.059
予防接種	63.9	58.6	58.0	63.7	.397
母子手帳交付時	69.7	57.8	45.5	37.3	.000
育児教室	51.6	42.2	42.4	44.0	.280
歯科健診	41.8	35.5	40.6	48.2	.081
健康相談	40.2	39.0	32.6	34.2	.312
離乳食教室	36.1	28.7	33.0	36.8	.248
母親教室	38.5	29.5	25.9	29.5	.125
特定健診	9.0	8.0	5.8	8.8	.469
その他	20.5	14.3	9.4	5.2	.001

母子手帳交付時をこども虐待の把握機会と認識している保健師の割合 ～事例経験数別～



まとめ

- こども虐待(含む疑い)事例の支援経験がある保健師は73.4%であった。
- 支援経験のある保健師のうち、10事例以上経験のあるものが20.5%、3-9事例が42.0%、1-2事例が37.5%であった。
- 保健師がこども虐待を把握できる機会と認識している保健事業は乳幼児健診が高かった。
- 保健師の事例経験数によって母子手帳発行時を子ども虐待把握機会と捉える認識には有意な差があった。